

くすのき



～ 平成29年度学校評価について ～

三寒四温を繰り返しながら、あれほど厳しかった今年の冬も終わりを告げようとしています。暖かい春がすぐそこまでやってきました。この一年間、保護者や地域の皆様には、本校の教育活動に多大なるご支援・ご協力を頂き、ありがとうございました。

さて、平成29年度も本校の教育目標を達成するために教職員が一丸となって教育活動を推進して参りました。その達成状況やその達成に向けた取り組みの適切さについて評価することにより、学校として組織的・継続的に改善を図ることが学校評価の目的です。その結果を保護者の皆様に公表することで学校の状況について共通理解を図りながら、来年度の学校運営の改善と教育水準の向上に努めたいと考えています。

【保護者(P T A役員)向けアンケート結果】規準(A:とても満足 B:まあ満足 を合わせた割合)

学校からの情報の内容や量	97%	規則・挨拶等の基本的生活習慣の指導	79%
自然学校・修学旅行・校外学習等の体験活動	95%	今年実施した参観日の回数・日程・内容	79%
音楽会・芸術鑑賞会等の文化活動	93%	集会・委員会・クラブ等の児童会活動	75%
運動会等の体育的活動	90%	思考力・判断力・表現力を養う学習指導	74%
学校の教育活動全般	86%	各学年の宿題の内容や量	74%
基礎体力作りや保健指導の実施状況	86%	道徳・人権教育の実施状況や充実度	72%
各教科での基礎・基本の学習指導	80%	学習面や生活面での支援を必要とする児童への対応	60%
登下校指導や安全指導の実施状況	80%		

【児童(5・6年生)向けアンケート結果】規準(A:とてもそう思う B:まあそう思う を合わせた割合)

登下校時、交通事故に十分に気をつけている	98%	教室や廊下で暴れたり走ったりしない	82%
パソコンや携帯電話を正しく利用している	97%	課題に対して最後まで取り組んでいる	82%
仲良しの友だちがいる	96%	早寝早起き朝ご飯の生活が出来ている	78%
集団生活でのルールやマナーを守っている	95%	体力作りのため、運動に取り組んでいる	75%
係活動や委員会活動に進んで取り組んでいる	93%	相手の意見を聞き、自分の考えと比べる	74%
毎日、宿題をきちんとしている	89%	道徳の学習を日常生活で行っている。	74%
良いこと悪いことを判断して行動できる	88%	音楽会は楽しい	72%
学習したことがだいたい理解できている	87%	自分には良いところが有り、好きである	69%
他人を傷つけるような言葉を使わない	84%	自分の考えを上手に相手に伝えられる	67%
先生は自分のことをよく分かってくれている	83%	くすのき学級の友人をよく知っている	65%
運動会は楽しい	82%	児童集会など児童会の活動は楽しい	56%
学校は楽しいと感じている	82%	授業中よく考え、進んで発表している	52%

【教職員の自己評価・学校評議員による評価】

評価基準 (A:ほぼ達成 B:7割程度達成 C:5割達成 D:達成には遠い)

重点事項	児童に道徳的な心情・判断力・実践意欲と態度・習慣等は育っているか。 1. 挨拶等の基本的生活習慣 2. 社会の決まり 3. いじめを許さない態度	
教職員の自己評価	B	・思いやりのある行動や明るい挨拶が徐々にとれるようになってきているが、地域や日常生活の中に習慣化できていない。また、集団ルールの遵守の面でも乱れた部分があった。長期的な展望に立って指導を継続していきたい。
学校評議員の評価	B	・挨拶は家庭の指導方針とも関連性が有り、一律の指導には困難な面もある。 ・挨拶相手の認識、登校班の班長のリーダー性、主体的に取り組む姿勢等、実生活の中で生きて働く力の育成に全力を傾けて頂きたい。
重点事項	登下校の安全対策は、十分に機能しているか。	
教職員の自己評価	A	・保護者や地域の皆様の協力体制により、児童の安全確保は格段に向上している。 ・軽微な事故の発生、不審者等の増加に対し、見守り活動を継続していきたい。
学校評議員の評価	A	・学校、保護者、地域の連携が充実しており、自分の身は自分で守るという児童の安全意識も高まっている。下校時の見守りと不審者対応については、今後も継続して検討しながら見守る必要があるだろう。
重点事項	不登校傾向にある児童の理解や支援は、組織的に対応できているか。	
教職員の自己評価	B	・児童支援対策委員会を毎月実施し、組織的な対応に取り組んでいる。支援対象児童が増えてきており、更に教職員の意識を高めながら、複数対応を心がけていきたい。また、外部機関との連携を強化していきたい。
学校評議員の評価	B	・学校の努力は十分に伝わっており、改善も見られる。今後は未然防止に向けて教職員の資質の向上を図ると共に、専門機関との連携の充実を目指してほしい
重点事項	いじめの未然防止・早期発見・早期対応への組織的な取り組みは、機能しているか	
教職員の自己評価	A	・定期的な教育懇談、いじめアンケートの実施により、いじめの状況把握に努め、早期発見・早期対応を心がけている。心情面の育成を目指し、人権・道徳教育の充実も図っている。今後も事案に対してはチーム対応を推進していきたい。
学校評議員の評価	A	・未然防止、早期発見に向けて、児童との日々のふれあいや定期的なアンケート、保護者との教育懇談等、効果的な取り組みが推進できている。 ・更に児童一人一人と向き合う時間の確保に向けて継続して取り組んでほしい。

～ 学校評議員の協力・支援 ～

本校では、学校、家庭、地域が連携協力しながら一体となって子どもの健やかな成長を担っていくために、学校運営に関して意見をお聞かせいただく「学校評議員」を6名の方に依頼しています。

保護者代表としてPTA 会長、地域代表として町内会連合会副会長、学校保健関係者として本校校医、地域で子どもや家庭を支える方として民生児童委員、教育に対する見識を持つ有識者として元教育関係者、地域の人権意識向上の関係者として元市人権教育指導員の方で構成されています。本年度も学校評議員の方にはお世話になり、ありがとうございました。